様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１２５２６

研究課題名（和文）現代アラビア語の標準化と地域差の生成―湾岸と西方アラブ地域の比較・相関研究

研究課題名（英文）Standardization of Modern Arabic and its Regional Differences: A Comparative Study of the Arab Gulf and the Maghrib Region

研究代表者
竹田　敏之（Takeda, Toshiyuki）

立命館大学・立命館アジア・日本研究機構・准教授

研究者番号：４０５８８８９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、西方アラブ地域と湾岸地域におけるプリントメディア・衛星放送、および教科書類を対象に、語彙（専門用語、外来語、日常語、時事用語）を選定収集し比較分析することで、現代標準アラビア語に（アメリカ英語／イギリス英語のような）地域差が生じている実態を明らかにした。
　また、西方アラブ地域（特にモーリタニア）における伝統的なアラビア語教育の実態と、同地域出身のウラマー知識人（シンキーティー知識人）による湾岸諸国での知的活動、および学術ネットワークの相関性に関する考察を進め、その成果を単著の該当する章に盛り込み刊行した。また、マレーシアの国際会議および国内の研究会にてその研究成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　従来の正則語を対象としたアラビア語研究および教材開発における問題の一つは、地域差に関する視点の欠如であった。本プロジェクトでは、「均一性」を強調した従来型に対して、標準の中の「地域性」という新たな側面に着目して研究を進めた。湾岸と西方アラブ地域を対象に、詩の例証および、メディアにおける現代用法と新語を収集・比較分析し、そのデータを構築した。これにより、地域性に富んだ用例の引用が可能となり、アラビア語の教材開発の発展に寄与できる研究成果を示すことができた。また、カイロ・アラビア語アカデミーと学術的な活動を展開できたことも、日本におけるアラビア語教育の展開において意義ある成果の一つである。

研究成果の概要（英文）：This study shows the reality of regional differences in Modern Standard Arabic through a comparative analysis of selected lexicons (technical terms, foreign words, daily vocabulary and neologisms) from print media such as newspapers and magazines, satellite broadcasts and textbooks in the Maghrib region and the Arab Gulf.
I have also clarified the current situation regarding the traditional Arabic language education in the Maghrib region (especially in Mauritania) and the religious and literary activities of the ‘Ulama intellectuals from the region (Shinqiti intellectuals) in the Gulf countries and their academic networks. I then published the research findings as a corresponding chapter in my monograph. I also presented on this research project at an international conference in Malaysia and at several research meetings in Japan.

研究分野：地域研究

キーワード：アラビア語　湾岸諸国　モーリタニア　クルアーン　ラスム学　アラブ韻律学　アラブ詩　外国語教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

アラブ世界を形成する３地域（東方地域、西方地域、湾岸地域）について、従来の定説では出版産業やアラビア語の規範整備の中心は東方で、西方は周縁的、湾岸は後進的という位置づけであった。本研究では、潤沢なオイルマネーによって湾岸地域が勃興し、エジプト・シリアなどの東方地域の相対的地位が低下する中で、メディアの発展と雇用拡大を背景に湾岸と西方地域（マグリブ諸国）の結び付きが強まっていることに着目する。そして、両地域の学術・メディア領域における人的ネットワークと言語使用を分析し、現代アラビア語に新たな標準化と地域バリエーションが生じている実態を明らかにする。具体的には、次の３つに着目して研究を進める。

（１）両地域のプリントメディア・衛星放送を対象に、時事用語や学術用語を選定し比較分析することで、地域差の諸相（外来語、新語・若者ことば、綴字など）を明らかにする。
（２）湾岸主導の出版・学術ネットワークについて西方地域との相関的展開を明らかにし、アラビア語の規範整備への影響を検証する。
（３）上記で得た語彙・用例データを、中東地域研究のためのアラビア語教材開発に応用する。

報告者は、現代アラビア語に関するこれまでの研究の中で、エジプト・シリアのアラビア語アカデミー中心に進めた標準化と規範化の整備の営為によって 20 世紀中葉に「現代アラビア語」が成立したことを明らかにした。しかし、アラブ民主化運動（「アラブの春」）が起こり、その後の混乱の中でエジプトやシリアはアラビア語の整備に関するイニシアチブを失い、アラブ世界における文化的な主導力は相対的に弱まった。

こうした状況の中で、潤沢なオイルマネーに支えられ経済成長を遂げている湾岸諸国のアラビア語の動向に注目した。同地域の言語変容の実態については、科学研究費・若手研究（B）「湾岸アラブ諸国の勃興による現代アラビア語の変容と国際化」（2015～2018 年度）（研究代表者）で新語や若者ことばの用例とともに明らかにした。湾岸をフィールドに調査を進める過程で明らかになったことは、「アルジャズィーラ」などの湾岸主導のメディアのアラビア語の担い手は湾岸人ではなく、その多くが西方アラブ地域の出身者であるということであ った。しかし、具体的に西方とその労働移動が湾岸主導のアラビア語にどのような影響を与えているのかという課題までは解明できず、さらなる調査が必要となった。

また、西方出身者が湾岸にもたらす「標準語」としてのアラビア語は、湾岸や東方の「標準語」としてのアラビア語と同じように「標準語」（フスハー）と称されるが、明らかに語彙の面で違いがある事例が観察でき、その一部は予備的な研究結果として発表した。しかし、これについても事例数やデータの量として決して十分なものではなく、標準化と地域差の生成については、さらなる詳しい調査と比較分析の遂行が必要であると考えるに至った。

２．研究の目的

本研究の目的は、現代アラビア語に新たな標準化と地域バリエーションが生じている実態を、湾岸（ハリージュ）と西方アラブ地域（マグリブ）の学術・メディアにおける言語使用の比較分析によって明らかにし、また同分野における人的ネットワークの相関性を解明することにある。具体的には、以下の事項を明らかにすることを目指す。

（１）湾岸地域と西方地域におけるプリントメディア・衛星放送、および教科書類を対象に、語彙（専門用語、外来語、日常語、時事用語）を選定収集し比較分析することで、現代アラビア語に（アメリカ英語／イギリス英語／インド英語のような）地域差が生じている実態を明らかにする。
（２）湾岸拠点の衛星放送局（アルジャズィーラなど）やアラビア語学術機関は、多くの西方出身者を重用しており、各地域のアラビア語およびその使い手の邂逅の場となっている。この湾岸主導の学術・メディアを通じた標準化のプロセスを明らかにするとともに、知的人材を輩出している人的・学術ネットワークの実態を調査し、西方・湾岸の相関性が現代アラビア語の規範整備にどのような影響を与えているのかを検証する。
（３）上記の比較分析の作業によって得た語彙・用例データを教材開発に応用し、従来の例文や場面設定におけるエジプト・シリアへの偏重傾向を克服し、より広域に対応できる湾岸および西方の題材を盛り込んだ、地域研究のためのアラビア語テキストの作成を目指す。

本研究は、現代アラビア語の標準化と地域差の生成に関する実態解明を目的とするが、単に言語データの収集と比較分析に終始するものではなく、言語使用の実態を当該地域の社会・メディアの動態の中に位置づけながら考察し、アラブ世界の言語社会の実像に迫ろうという、地域研究

に立脚した分析方法にその特色がある。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本課題では、湾岸地域と西方地域における言語使用の実態解明および、学術ネットワークの相関性に関する調査・考察と、言語データの比較分析による用例の抽出作業を軸とした研究プロジェクトを計画した。概要は以下のとおりである。

（１）アルジャズィーラのメディアのアラビア語に関する取り組みについて、同機関が刊行する文法・語法マニュアルを対象とした分析を行う。また、同放送局をはじめ、湾岸諸国とマグリブ地域のメディアにおける正則語の使用実態、およびその地域性を明らかにする。臨地調査で収集した新聞・雑誌および、インターネット・SNS、衛星放送などのメディアから外来語・専門用語に関する語彙を抽出し、比較分析の基礎作業を進める。

（２）西方アラブ地域における出版状況を明らかにするために、カサブランカで開催される国際ブックフェアを対象に、湾岸諸国からの出版社の参加数、および他のアラブ諸国との比率について調査を行う。 また、モーリタニアの教育機関である「マフダラ」を対象に、その伝統教育の実態と現代的変容に関する調査・考究を進める。「マフダラ・ウンムルクラー」（モーリタニア、ワーディー・ナーカ）のアブドゥッラフマーン・ター氏と、シャルジャ文化情報庁（アラブ首長国連邦）のムハンマド・アミーン氏を研究協力者として、西方アラブ地域における教育法・教授法について聞き取り調査を行い、アラビア語学およびラスム学（聖典クルアーンの綴字法に関する学問）の西方的伝統の特徴を明らかにする。モーリタニアにおける湾岸系出版社による刊行物の普及についても調査と情報収集を進める。

（３）研究期間を通じて集積したデータから、湾岸と西方の地域差について 1000 の語彙と 700 の例文を抽出し語彙集を編纂する。その際に、①専門用語、②日常語、③外来語、④新語について検討を行う。最終的にこれらの分析・検証の成果を、報告者が進めてきた中東地域研究者および大学院生向けのアラビア語教科書の内容と全体の構成の再編作業に反映し「西方アラブ地域の語彙表現」「現代アラビア語の地域差」の章として盛り込む。また教科書には、詩と韻律に関する解説と各課を加え、より充実した上級向けのアラビア語教材へと発展させる。また、対応した教師用ガイドとして、本研究の用例を豊富に取り入れた（特に詩の例証を盛り込む）アラビア語文法レファレンスの刊行を目指す。

４．研究成果

本研究では、臨地調査と言語データ（語彙・用例）の収集・分析を中心に、以下の研究活動を実施し、その成果を示した。

（１）サカーファ出版社（モロッコ・カサブランカ）のムハンマド・ナブガ氏をカウンターパートとして、カサブランカ国際ブックフェアを対象に、同国における出版状況とアラビア語研究の最新動向に関する臨地調査を実施した。特に、アラビア語化（タアリーブ）の問題、また法律・経済・メディアの専門用語を扱った書籍・辞書類、アラブ詩と韻律学（アルード学）に関する教本・教科書を収集し、湾岸地域における語彙使用との比較考察および、教材作成のための用例の抽出・選定を行った。語彙の地域性、すなわち正則アラビア語のマグリブ的用法の判定については、シャルジャ文化情報庁のムハンマド・アミーン氏（モーリタニア）と、カイロ・アラビア語アカデミーのムスタファー・ユースフ氏（エジプト）による知見の提供と協力を得た。また、モロッコ南部のギルミーム（ゲルミン）およびターンターン出身のハッサーニーヤ方言話者を対象に、遊牧文化（ラクダ、テント、井戸、茶、詩歌）に関する語彙・表現を収集し、湾岸地域／アラビア半島における同分野の類語に関する語彙データを構築した。

（２）西方アラブ地域（特にモーリタニア）における伝統的なアラビア語教育の実態と、同地域出身のウラマー知識人（シンキーティー知識人）による湾岸諸国での知的活動、および学術ネットワークの広がりに関する考究を進展させ、その成果を単著『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』の該当する章に盛り込み刊行した。また、マレーシアの国際会議にて同テーマに関する研究報告を行った。

（３）マグリブ諸国と湾岸における「千行詩」（文法規則を約千行の韻文でまとめた要綱テキスト）の普及に関する史的考察と本文の比較分析、モロッコにおける読誦流派（ワルシュ流派）の伝統と現代アラビア語の規範との関係、アルジャズィーラを事例としたメディア・アラビア語の現代用法とその規範に関するコンセンサス形成、という３課題について日本中東学会および日本オリエント学会等で研究成果を発表した。読誦流派の考察については、その一部を論考「アラ

ブ世界における印刷技術の発展とクルアーンの刊本化」としてまとめ刊行した。

（３）地域研究者を対象とした上級レベルのアラビア語教科書の制作について、追加すべき事項と旧版からの改善点を共著者と協議した。カイロ・アラビア語アカデミーのムスタファー・ユースフ氏を招き、アラビア語学における類推（キヤース）と現代語彙の造語法に関する研究会を実施した。特に、現代用法における正誤判断の基準とその課題について討論を行い、同教科書およびアラビア語文法レファレンスの刊行に向け、助言と知見の提供を受けた。また、日本のアラビア語教育における韻律学の位置づけと教授法に関する課題を明らかにしながら、上記の教科書への導入について検討を行った。イスラーム文明とアラブ文学に関する国際シンポジウムを企画・開催し、アラブ韻律学の伝統とハリール学派におけるムタダーラク調の史的展開について研究発表を行った。その研究成果を発展させ、アラブ詩と韻律学に関する事項を執筆した。具体的には「正調と破調」「韻律解析の手順」「詩の破格用法」、16 律式に関する各章（ワーフィル調、ムタカーリブ調、ムタダーラク調、マディード調、ラジャズ調、ムジュタッス調）をまとめ、教科書の刊行および論考の公表へ向けた準備を整えた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 竹田敏之	４．巻 第65巻，第2号
２．論文標題 書評「依田純和著『アラビア語』『アラビア語別冊：文字編・文法表・語彙集』」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『オリエント』	６．最初と最後の頁 167-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹田敏之	４．巻 No.242
２．論文標題 クウェートの魅力と若き日の文化体験	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『日本クウェイト協会報（Japan-Kuwait Society Bulletin）』 日本クウェイト協会	６．最初と最後の頁 pp.13-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Toshiyuki Takeda
２．発表標題 “The Orthography of the Qur’an in Islamic Literary Tradition: Between the West (al-Maghrib) and the East (al-Mashriq) in the Arab World”, Parallel Session1 “Arab-Islamic Traditions in the Modern World”
３．学会等名 20th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toshiyuki Takeda
２．発表標題 “Tarikh ‘Ilm al-‘Arud al-‘Arabi wa Tatawwuru-hu: Qadiya Bahr al-Mutadarak fi Mizan al-Buhur al-Khaliliya”（アラブ詩における韻律学の史的展開：ハリール学派におけるムタダーラク調の位置付け）
３．学会等名 al-Mu’tamar al-Dawli al-Awwal bayna al-Yaban wa Indunisiya hawla al-Hadara al-Islamiya wa al-Adab al-‘Arabi （第1回「イスラーム文明とアラブ文学に関するインドネシア・日本国際シンポジウム」）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 「クルアーン読誦学とアラビア語正書法の展開：ラスム学の５原理とその主要著作」
３．学会等名 CISMORリサーチフェロー研究会啓典解釈研究セミナー「クルアーンの理解と解釈：古典期ウラマーの実践を中心に」（同志社大学）
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 「アジア文学のオーラリティ：ポストコロナとDX時代を踏まえた論点整理」
３．学会等名 学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略：ポストコロナ時代を見据えて」（立命館大学アジア・日本研究所）
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 「現代アラブ詩における韻律学の伝統と革新」
３．学会等名 日本中東学会第38回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 アラブ詩と韻律学の史的展開と現代の課題
３．学会等名 イスラーム法研究会「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 現代アラビア語における「標準」とは何か：クルアーン読誦流派の影響とその実証的考察
３．学会等名 日本中東学会第37回年次大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 アラブ詩における韻律学（アルード）の形成と展開　：ハリール学派による15律式説を中心に
３．学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 アラビア語学におけるキヤースの位置付けと現代語彙の造語法
３．学会等名 イスラーム法研究会「法源学とアラビア語学におけるキヤース（類推）をめぐって」
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 アラブ・イスラーム文化における「千行詩」の伝統と現代性：イブン・マーリク以降のアラビア語文法学を中心に
３．学会等名 日本中東学会第36回年次大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 アラビア語におけるイジュマー（コンセンサス形成）：伝統的学者ネットワークと現代メディアの役割
３．学会等名 イスラーム法研究会「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 現代アラビア語の標準化とクルアーン読誦学における流派間競合：ハフス流派の優勢化について
３．学会等名 日本オリエント学会第62回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Toshiyuki TAKEDA
２．発表標題 Arab-Islamic Civilization in Mauritania and the Role of the Shinqiti Scholars Network of Knowledge
３．学会等名 10th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019) (Bangi, Malaysia)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹田敏之
２．発表標題 湾岸とマグリブを繋ぐモーリタニア知識人ネットワーク：「周縁」に脈々と生きるアラビア語伝統
３．学会等名 現代中東地域研究・次世代共同研究「現代ムスリム知識人の地域横断ネットワークに関する研究：ウズベキスタン・シリア・リビアのウラマー・スーフィーの交流を中心に」(2019年度第3回研究会)
４．発表年 2019年

〔図書〕　計7件

1．著者名 竹田敏之	4．発行年 2022年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 409
3．書名 「アラビア語」『世界の公用語事典』（庄司博史編），118-123頁．	

1．著者名 竹田敏之	4．発行年 2021年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 250
3．書名 「アラビア語による出版技術の発展とクルアーンの刊本化」『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク――イスラームのゆくえ』（千葉悠志,安田慎編），25-52頁．	

1．著者名 鷲見朗子編著 ; 依田純和，福田義昭，竹田敏之，冨永正人著	4．発行年 2019年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 223
3．書名 例文で学ぶ アラビア語単語集	

1．著者名 竹田敏之	4．発行年 2019年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 366
3．書名 現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代 : 湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで	

１．著者名 竹田敏之	４．発行年 2019年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 165
３．書名 ニューエクスプレスプラス アラビア語《CD付》	

１．著者名 竹田敏之	４．発行年 2023年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 748
３．書名 「イスラーム化とアラビア語・アラビア文字の拡大」『イスラーム文化事典』イスラーム文化事典編集委員会編，100-101頁.	

１．著者名 竹田敏之	４．発行年 2022年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 35
３．書名 「『倍増し』の悦び、謎解きの双数形」ことば紀行［51］アラビア語（コラム）『白水社の本棚』，32頁	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会 al-Mu'tamar al-Dawli al-Awwal bayna al-Yaban wa Indunisiya hawla al-Hadara al-Islamiya wa al-Adab al-‘Arabi（第1回「イスラーム文明とアラブ文学に関するインドネシア・日本国際シンポジウム」）	開催年 2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関